

進行役：垣沼絢子さんからのメッセージ

こんにちは。進行役の垣沼絢子です。

劇評ワークショップでは、上演を観て、自分の感想を自分の言葉で表現し、劇評にしていきます。

感想と劇評って、何が違うの？なぜ人と共有しないといけないの？

そんな疑問が浮かぶかもしれません。

演劇において、皆さんの感想は、なぜ大事なのでしょうか。

演者や制作者に、観客の思いを直接伝えること。何が良くて、何が良くなかったのか。次の創作に生かしてもらうこと。これは、観客の感想が持つ、重要な役割の一つです。実際、舞台を観た後、アンケートに感想を書いたり、SNSでメッセージを飛ばしたり。経験したことがある人もいるでしょう。メイシアターでも、他の舞台ジャンルと比べて演劇の公演アンケートへは、皆さんびっしり感想を書いてくださるようで、とても嬉しく読んでいるとうかがっています。

でも実は、伝える相手は、創作者だけではありません。


皆さんの感想は、他の観客にとって、あるいは未来の観客にとって、とても大事なものであるのです。

一般的に、「生」で行われる演劇の場合、そこで実際に何が行われたのかを知るためには、公開された観客の言葉が頼りです。

演者の言葉、演出家の言葉、劇作家の言葉、制作者の言葉、宣伝のチラシ、記録映像…様々な記録が残されていきますが、それらはいわば、「公演」という平均値の記録です。それも、「公式の見解」。どこまで信用できるものか、わからないのも正直なところ。

でも、演劇って、各上演、舞台の様子も少しずつ違っているし、観客の反応も毎回違う。今日のお昼の回と、昨日の夜の回は、違う、というのが「上演」です。

「公演」が「上演」の平均値であるならば、「上演」は「公演」からはみ出た部分を常に持つもの。そうした毎回の「生」の記録は、そこに立ち会った観客の言葉によって、他の人ははじめて知ることができるのです。



自分が観た「上演」の感想を、観た人同士で共有して盛り上がる。——それもとても大切なこと。

自分が観た「上演」の感想を、観なかった人に伝えて盛り上がる。——そのために役に立つのが、「劇評」という考え方です。

劇評とは、「第三者」に、上演の情報（自分が観たこと）と、上演を評価する視点（自分が考えたこと）を伝える言葉。

「第三者」を意識することが、感想と劇評を分けるでしょう。

特に上演期間が短い演劇の場合、劇評は、誰かが次の作品を観に行くための参考となることが多いもの。劇評が公開されるときには、既に上演が終わっていることが多いからです。

出演者や演出家、劇作家や劇場、それらがどのような特徴を持っているのか、どのように評価されたのか。劇評に散りばめられた言葉は、次にどの作品を観ようかなと、未来の観客の道しるべとなるのです。

さあ、他の人と感想をシェアしたい、自分の感想を劇評にしてみたい、と思われた方、まずは気楽に、皆で感想を共有してみましょう！

上演について語る言葉を、蓄積していきましょう！

そして、おススメの道しるべを、一緒に作りましょう！

今回は、怪盗二十面相のひとり芝居。

原作とどう異なり、どんな演技や演出になっているのか？

3回の上演は、同じなのか違うのか？

ぜひ、劇評ワークショップで、お話ししましょう！

皆様のご参加、心よりお待ちしております。

